

参考資料 ②

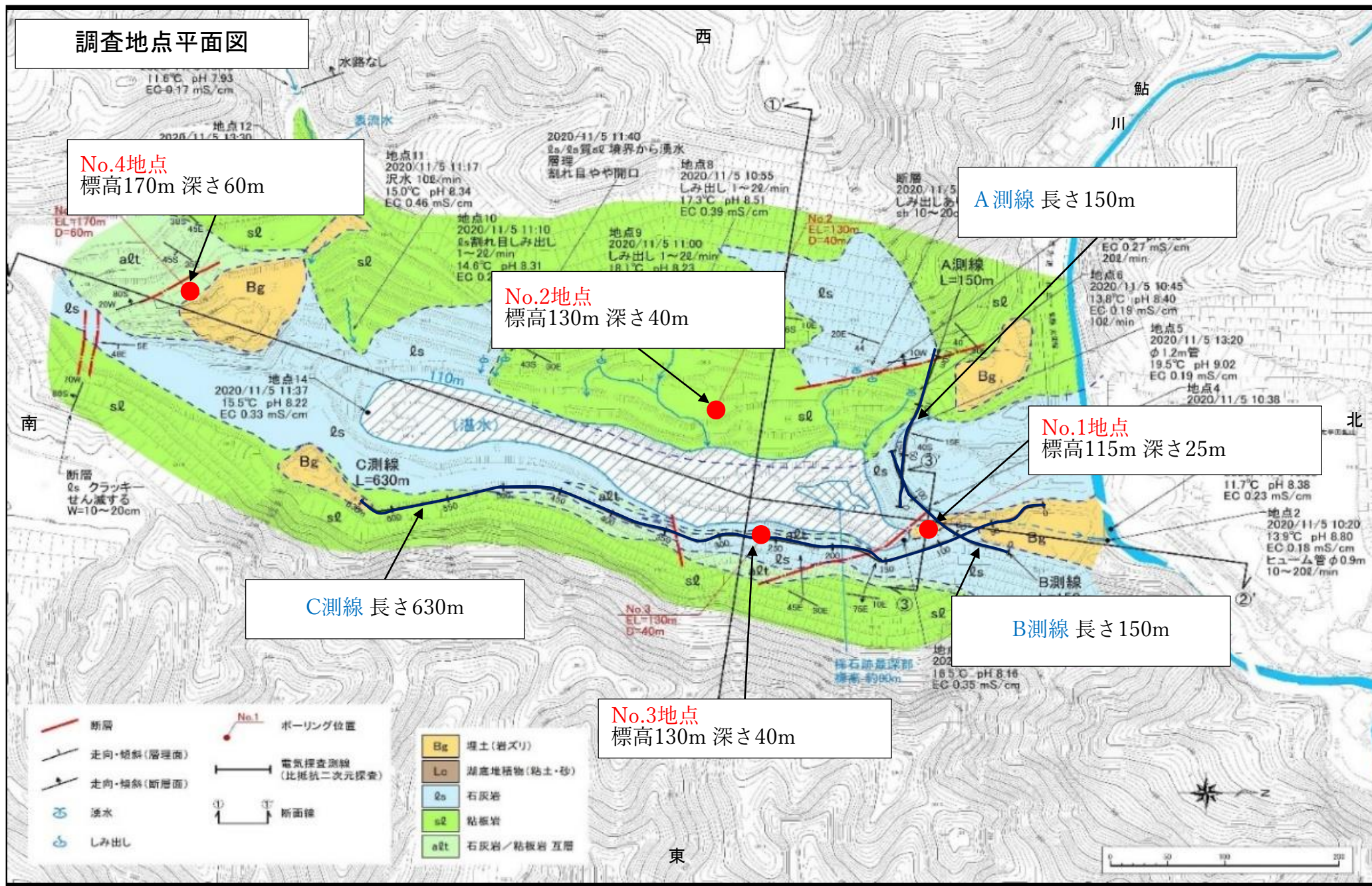
地質調査結果(令和3年1月末現在)

(ボーリングコア画像、ボアホールカメラ画像、電気探査解析断面図)

令和3年 3月

茨城県

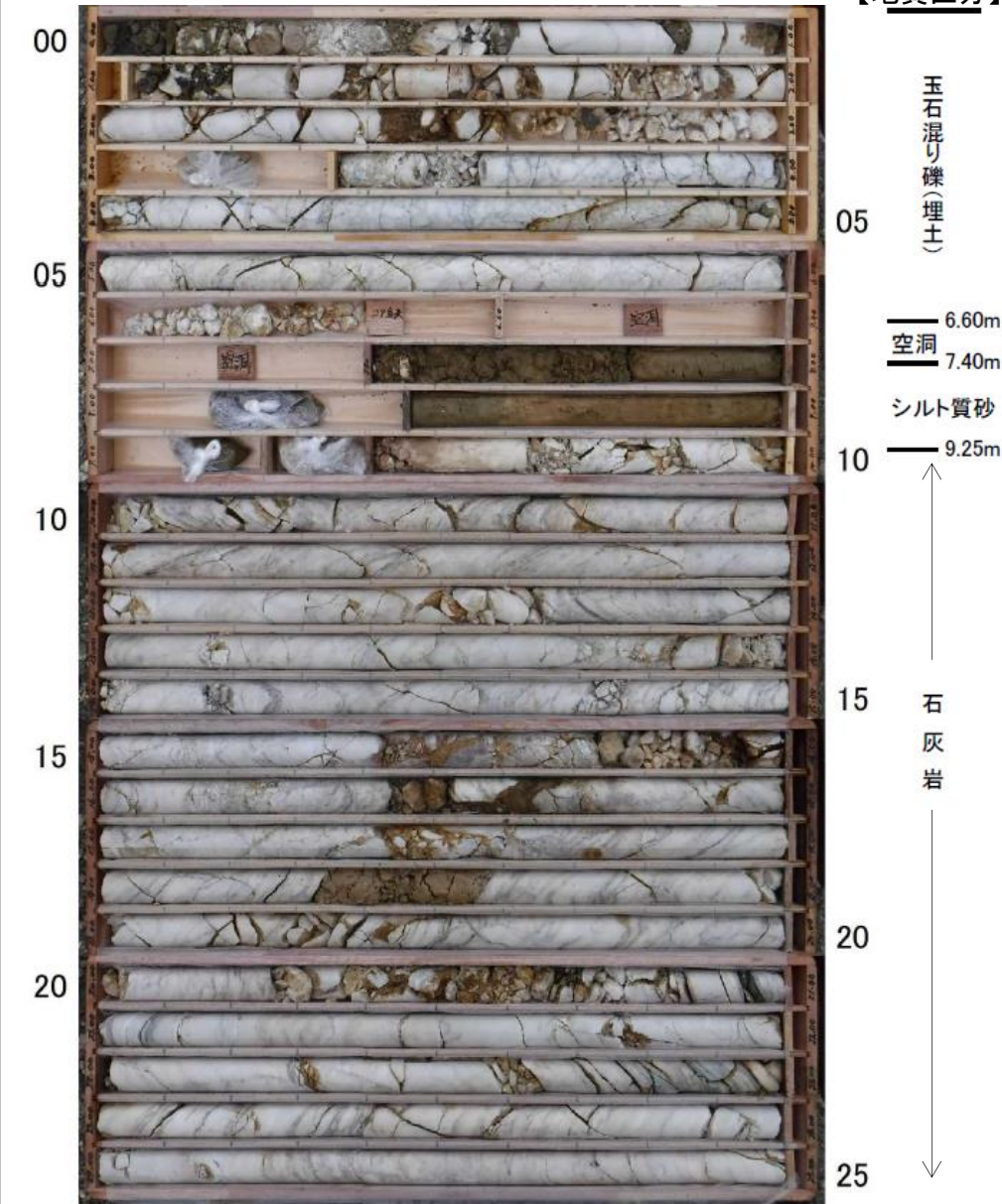
2 地質調査結果



ボーリングにより採取したコアの画像 (No.1) 0~25m

コア長 1m

深度(m)

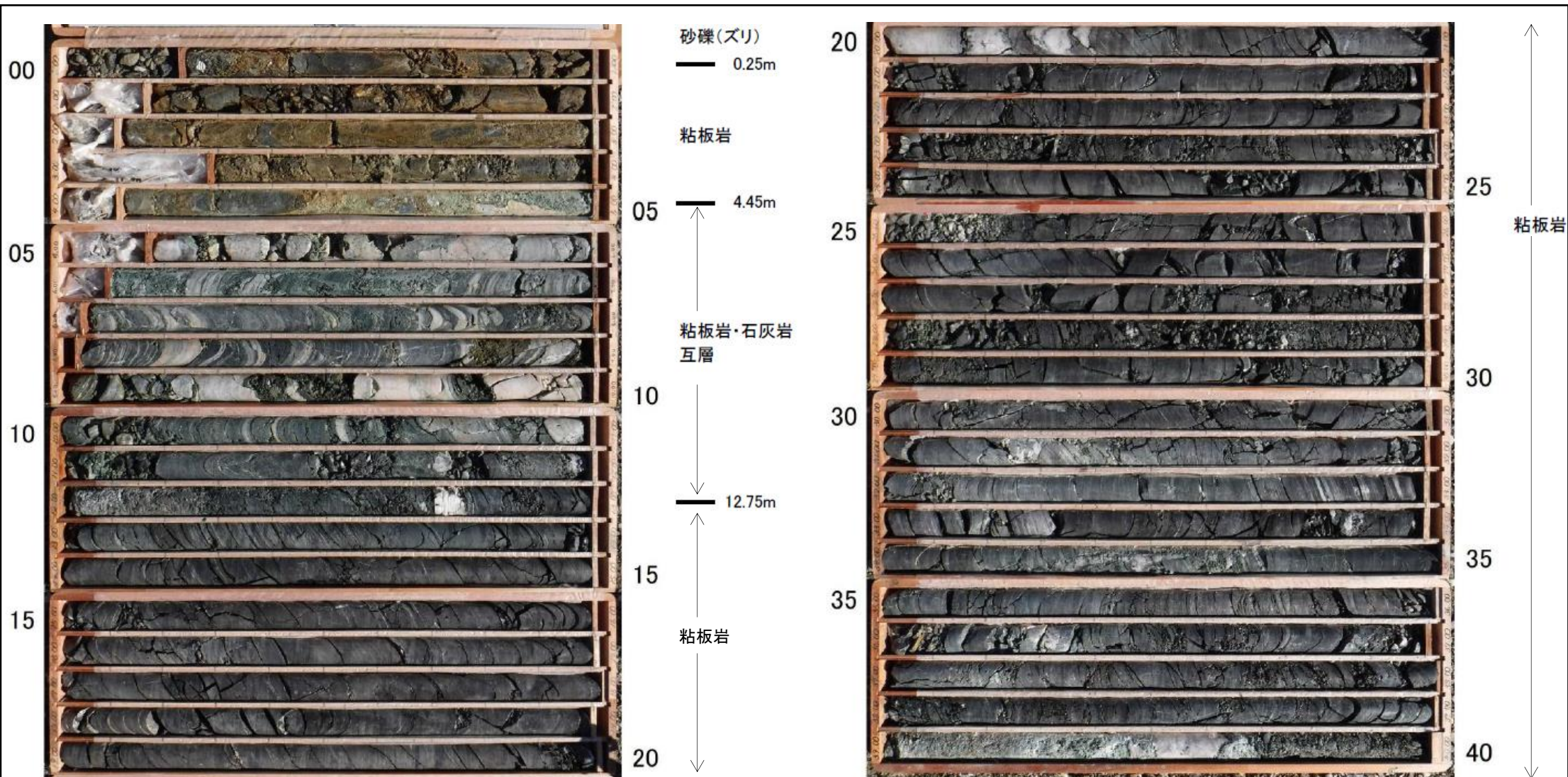


※地表から深度6.6mまでは、埋土である「玉石交じり礫」であり、深度6.60m~7.4mが「空洞」となっているのは、コアチューブ落下によるもの。

※「シルト」とは、砂よりも粒径の小さい土のこと。
「シルト質砂」は、湛水中の堆積物と同様のものが、埋戻し前に堆積したと考えられる。

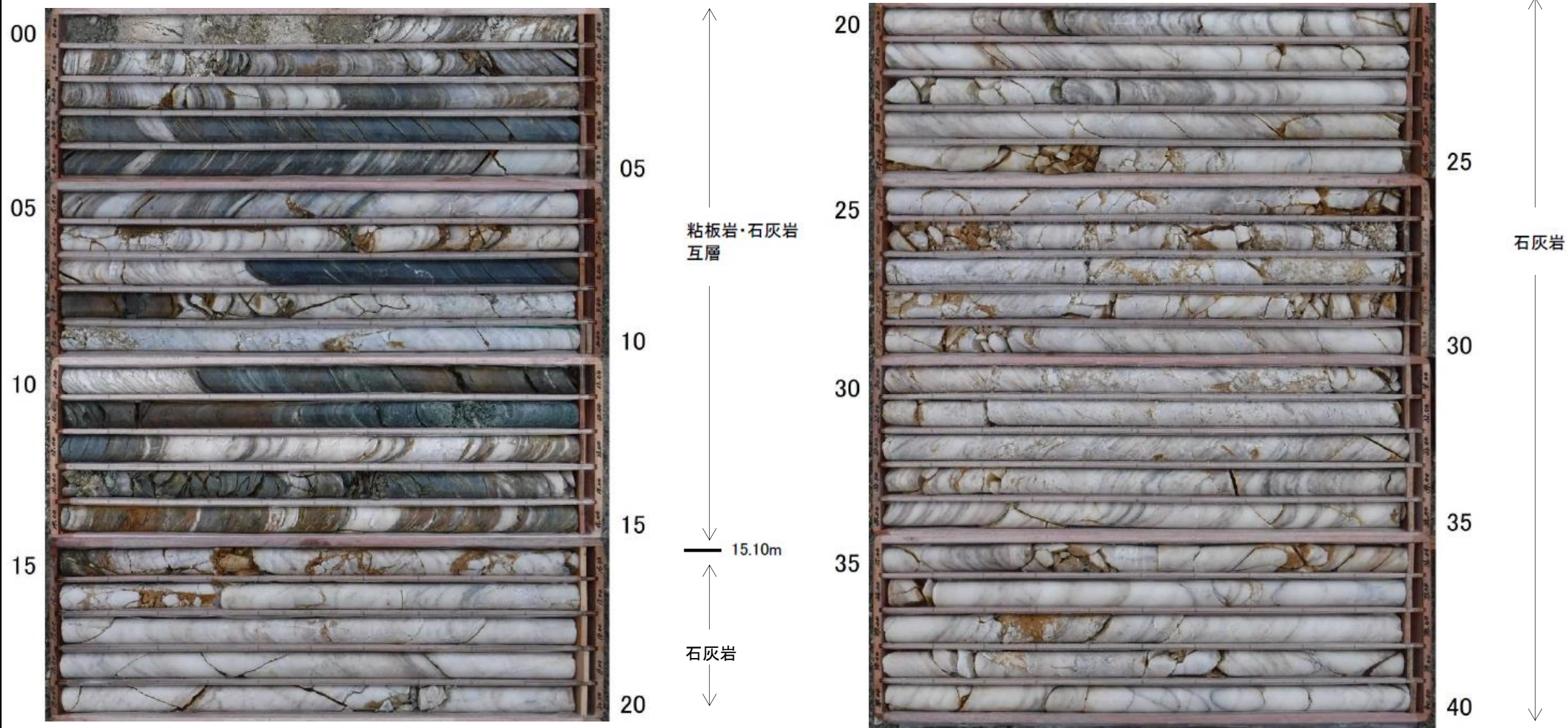
※深度9.25m~25mは、石灰岩の層である。

ボーリングにより採取したコアの画像 (No.2) 0~40m



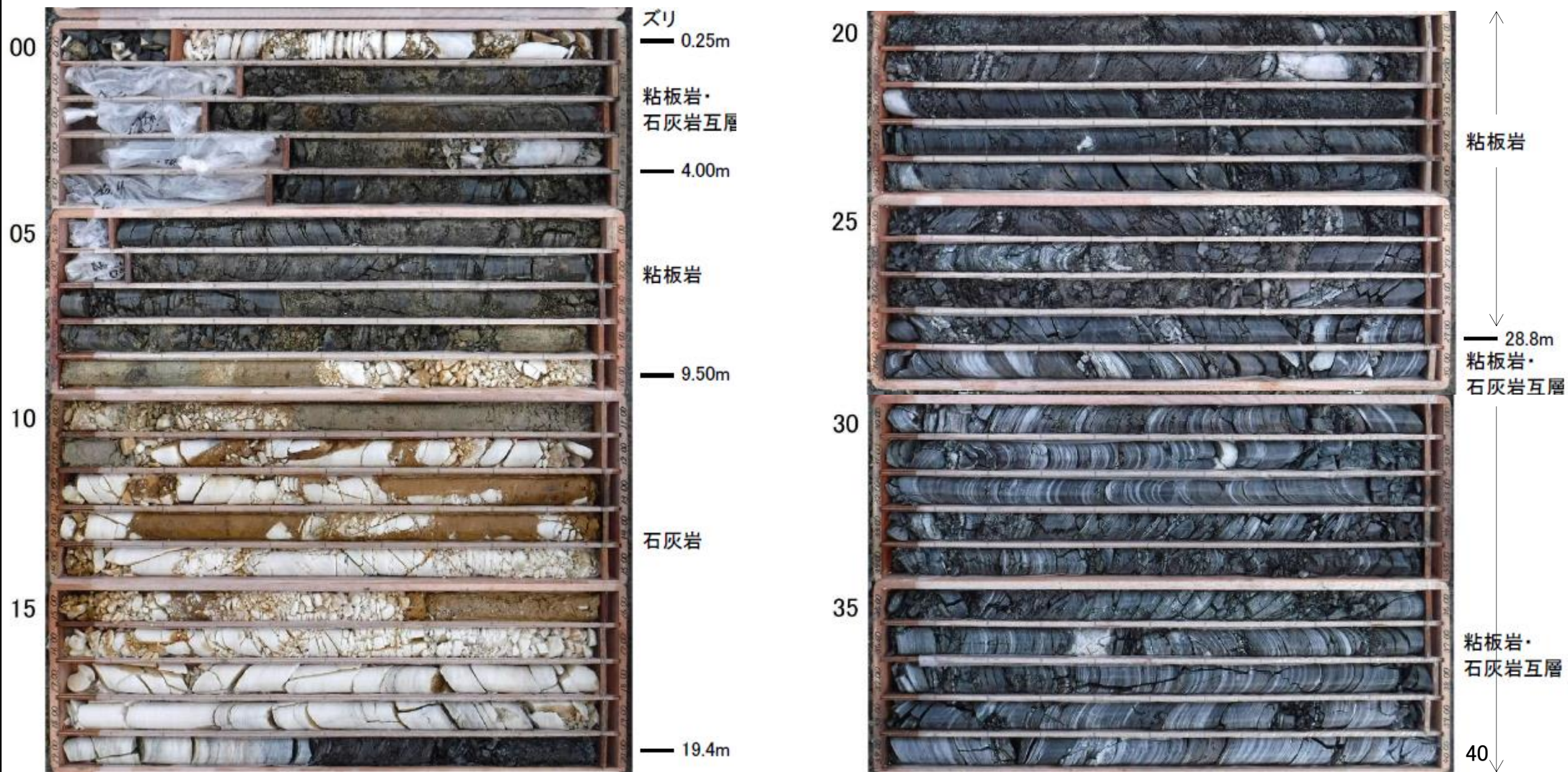
※表層に砂礫(ズリ)があり、深度0.25m~4.45mまでは粘板岩、4.45m~12.75mまでは粘板岩と石灰岩の互層、12.75m~40mまでは粘板岩となっている。

ボーリングにより採取したコアの画像 (No.3) 0~40m



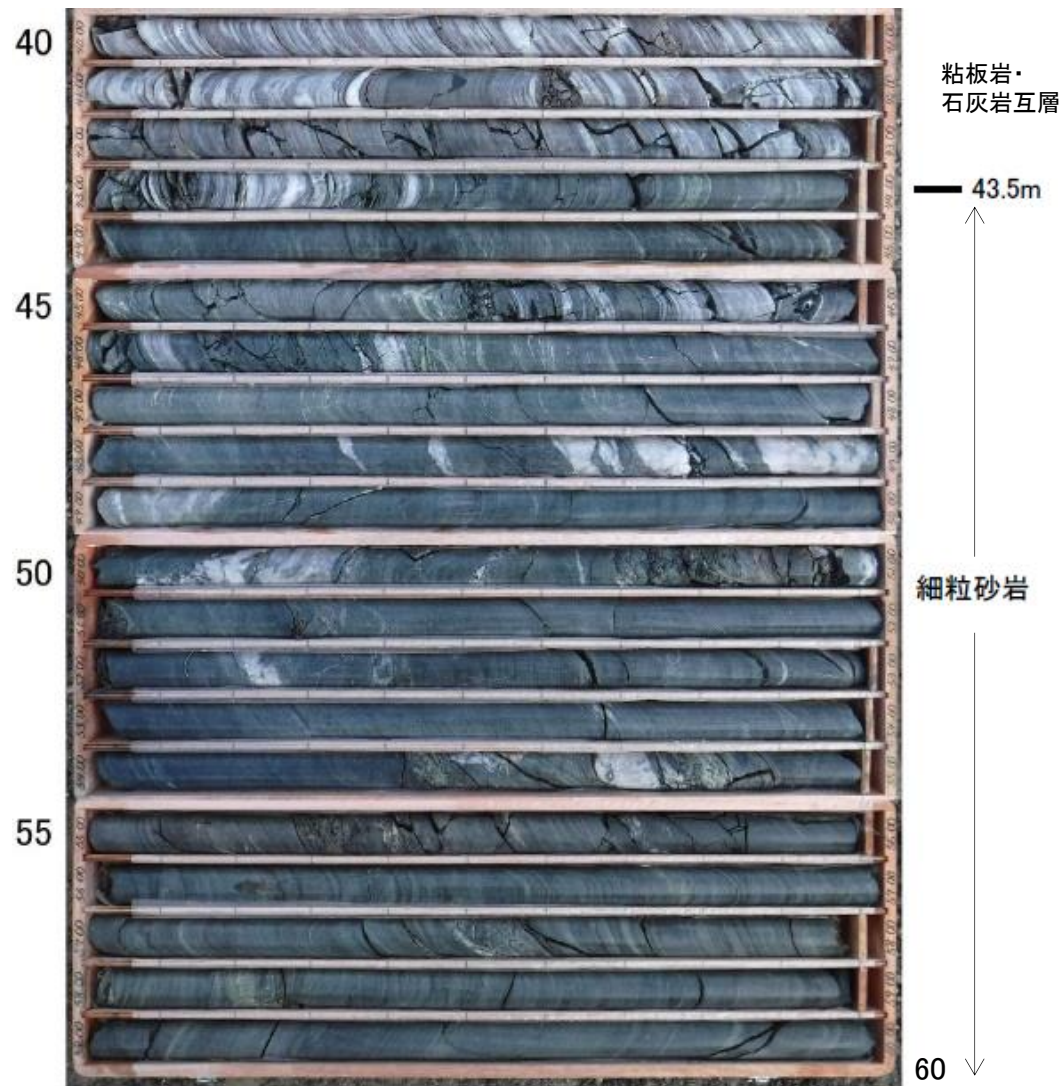
※深度0m~15.10mまでは粘板岩と石灰岩の互層、15.10m~40mまでは石灰岩となっている。

ボーリングにより採取したコアの画像 (No.4) 0~40m



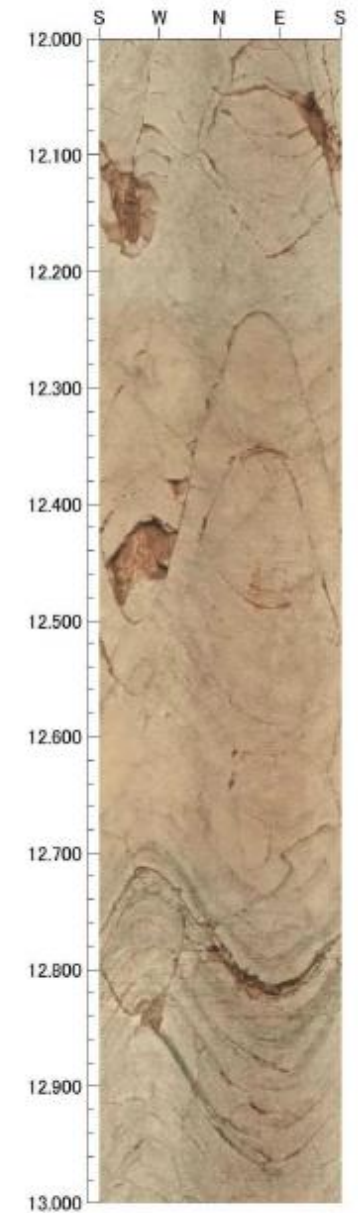
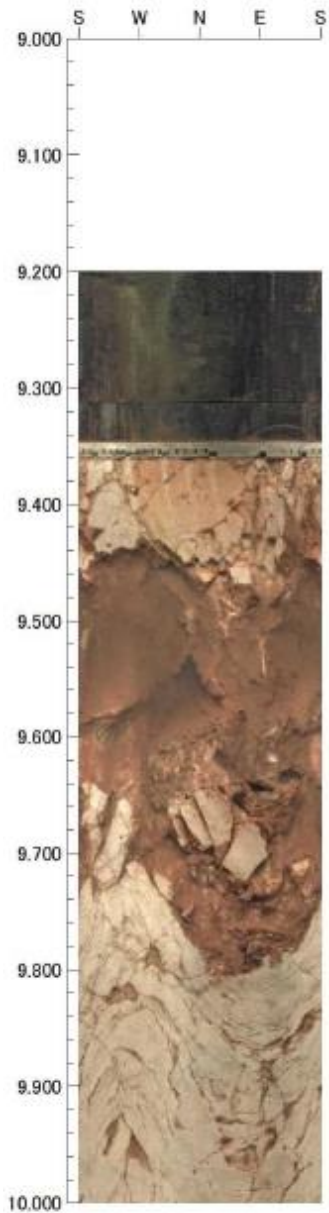
※表層にズリがあり、深度0.25m~4.00mまでは粘板岩と石灰岩の互層、4.00m~9.50mまでは粘板岩、9.50m~19.4mまでは石灰岩、19.4m~28.8mまでは粘板岩、28.8m~40mまでは粘板岩と石灰岩の互層となっている。

ボーリングにより採取したコアの画像 (No.4) 40~60m



※深度40m~43.5mまでは粘板岩と石灰岩の互層、43.5m~60mまでは細粒砂岩(砂岩の中で最も粒径が小さいもの)となっている。

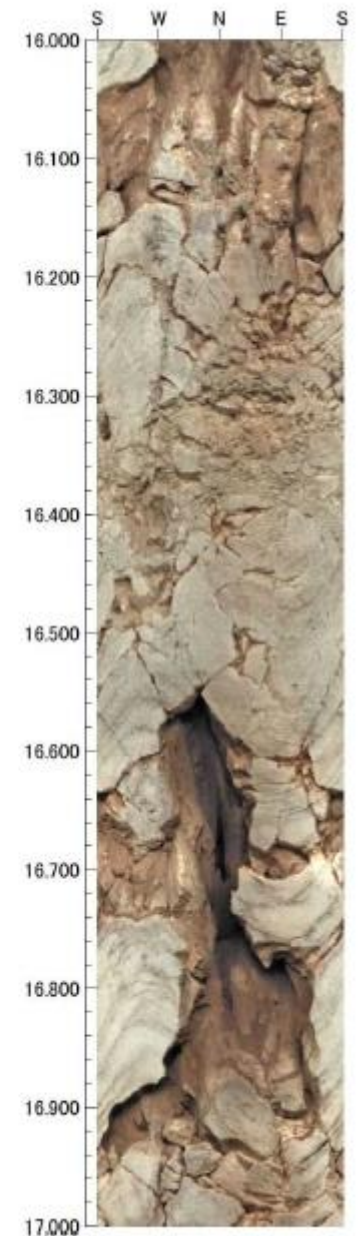
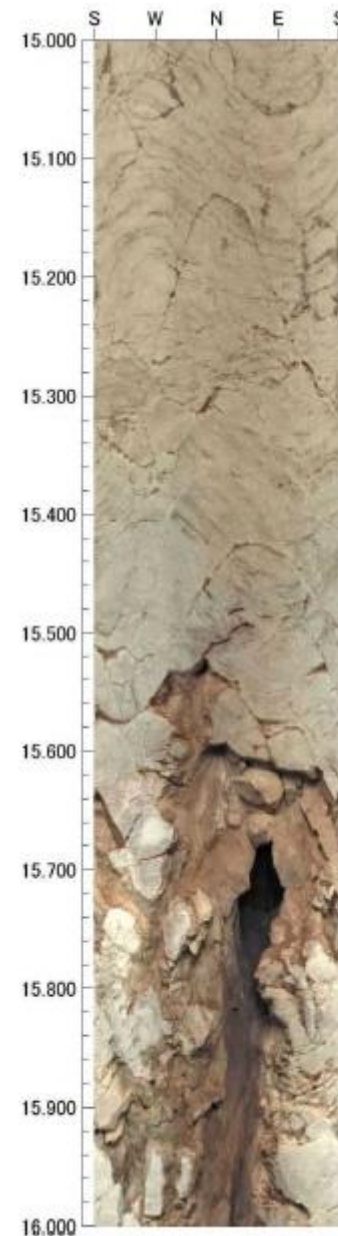
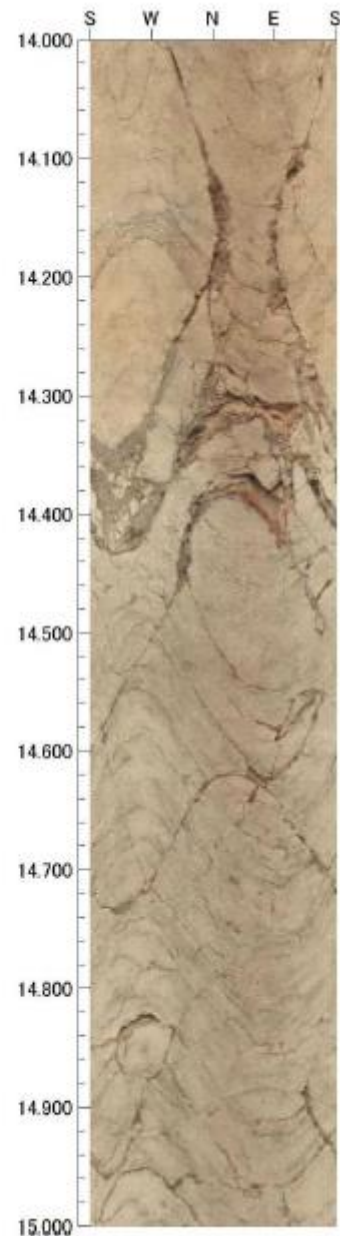
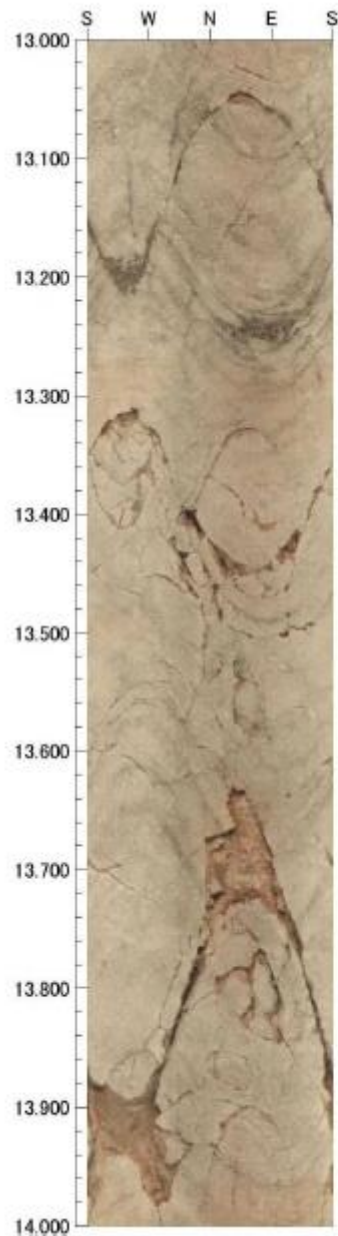
ボーリング孔内の画像 (No.1) 9~13m



※緻密な石灰岩が確認できる。

深度9.36mまでは、ボーリング孔壁崩壊防止のための「ケーシングパイプ」を挿入したため、孔壁は撮影していない。

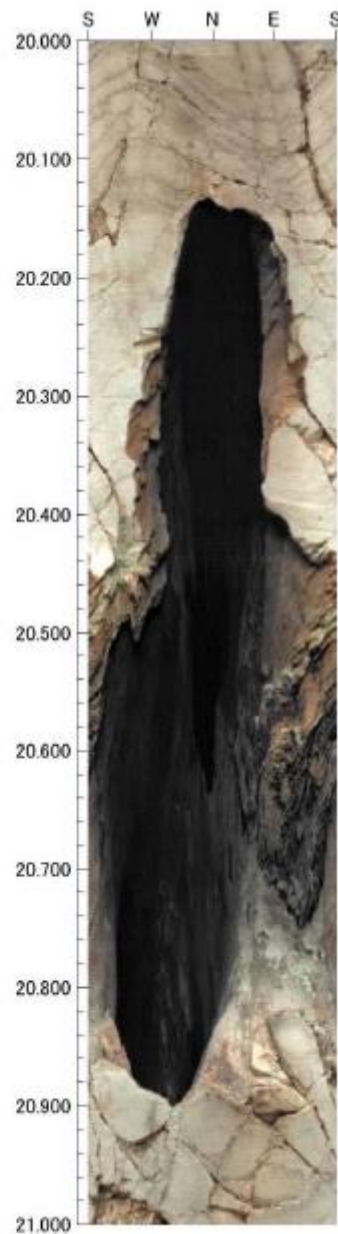
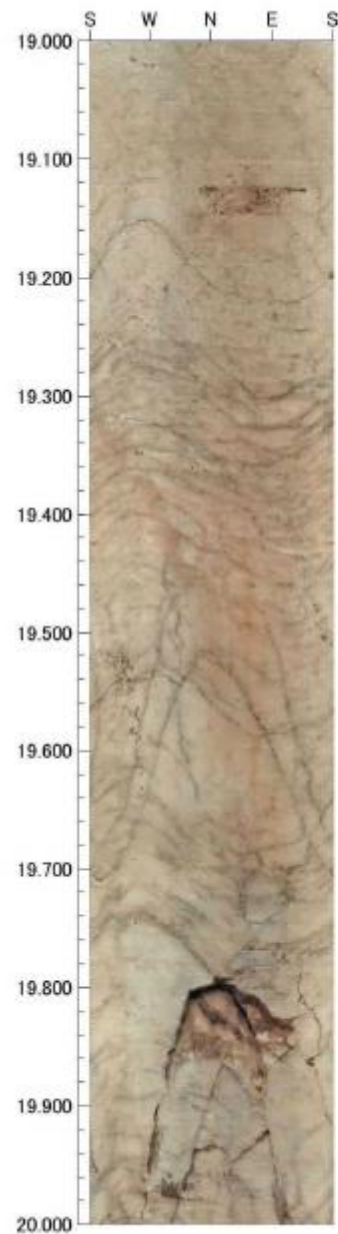
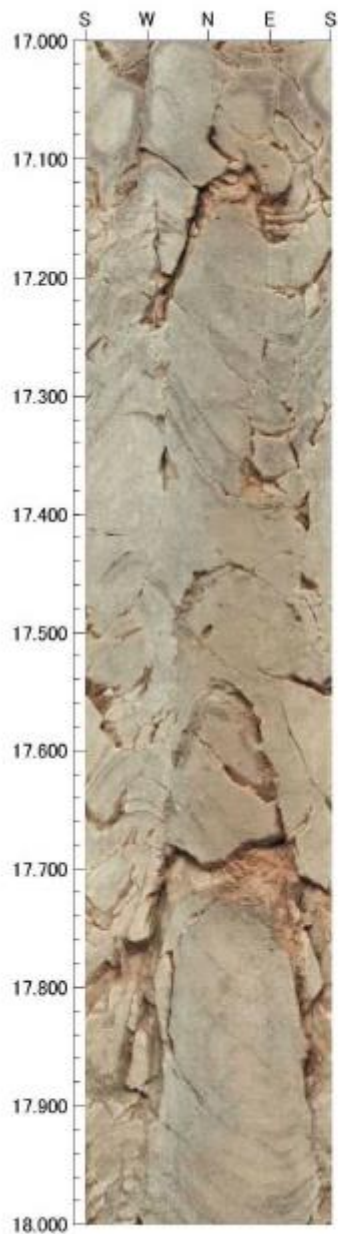
ボーリング孔内の画像 (No.1) 13~17m



※深度13.00mから緻密な石灰岩が確認できる。

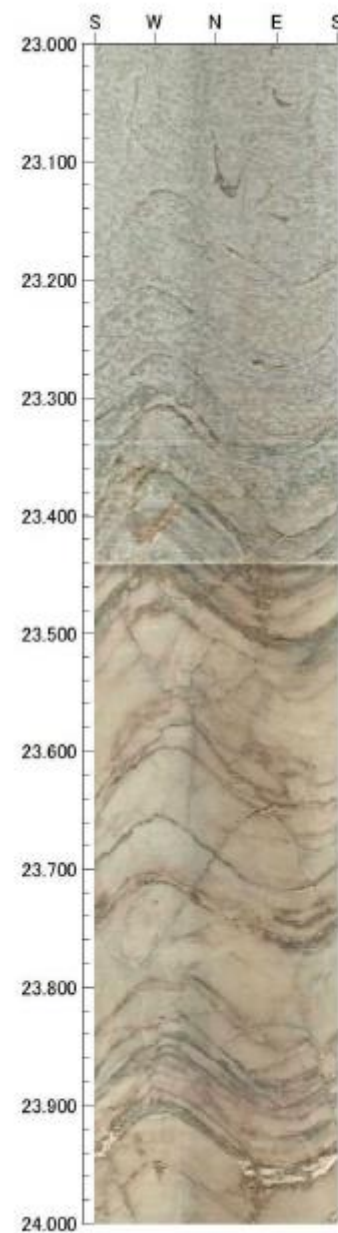
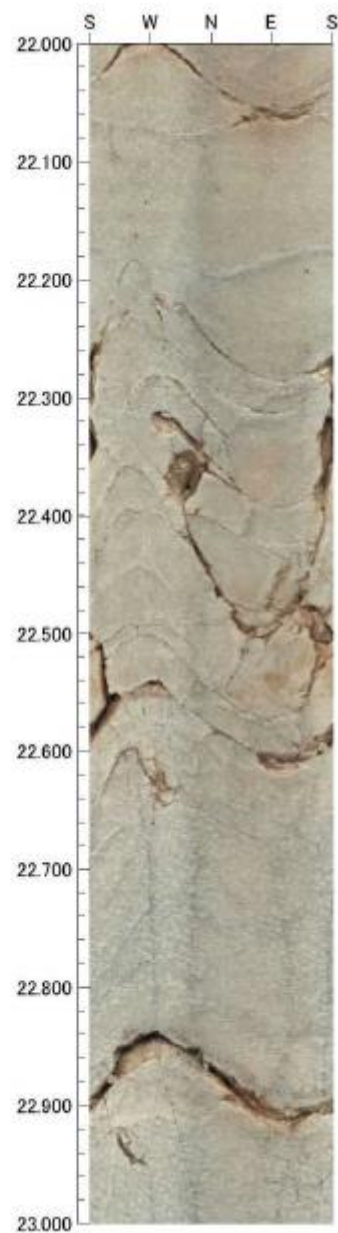
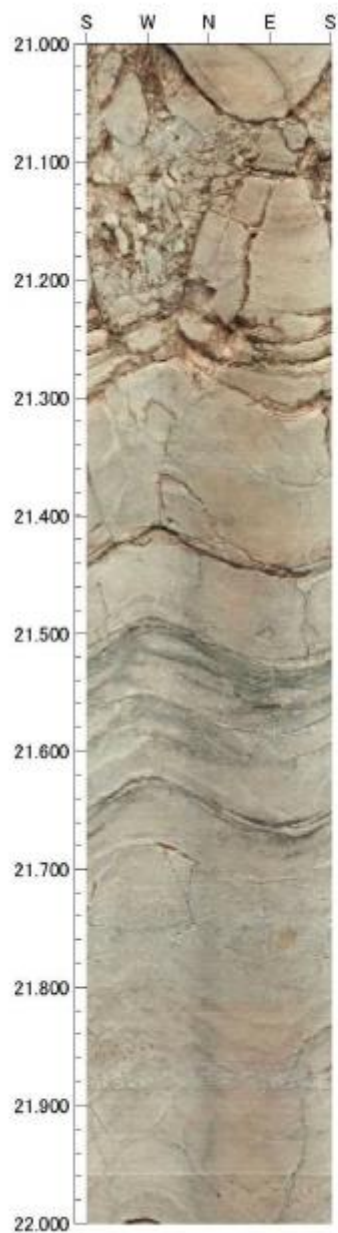
深度15.65m~16.00m及び16.55m~16.95mに小規模な空洞と想定される箇所がある。

ボーリング孔内の画像 (No.1) 17~21m



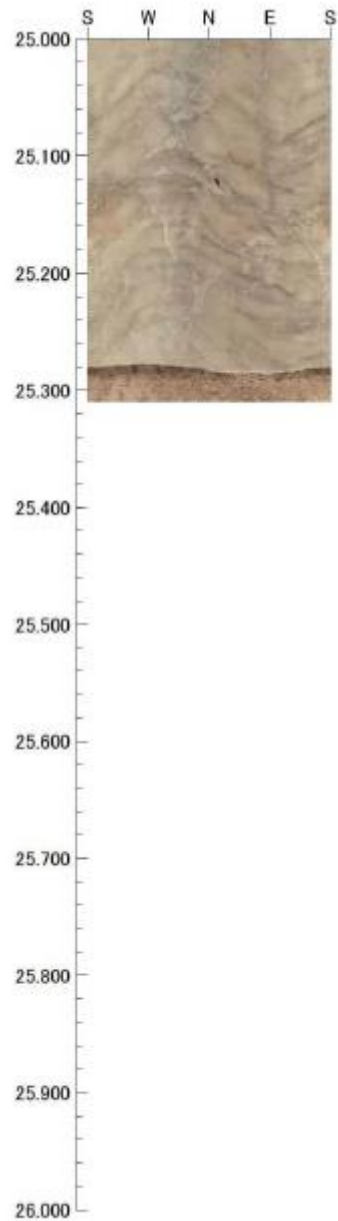
※深度17.00mから緻密な石灰岩が確認できる。
深度20.15m~20.90mに小規模な空洞と想定される箇所がある。

ボーリング孔内の画像 (No.1) 21~25m



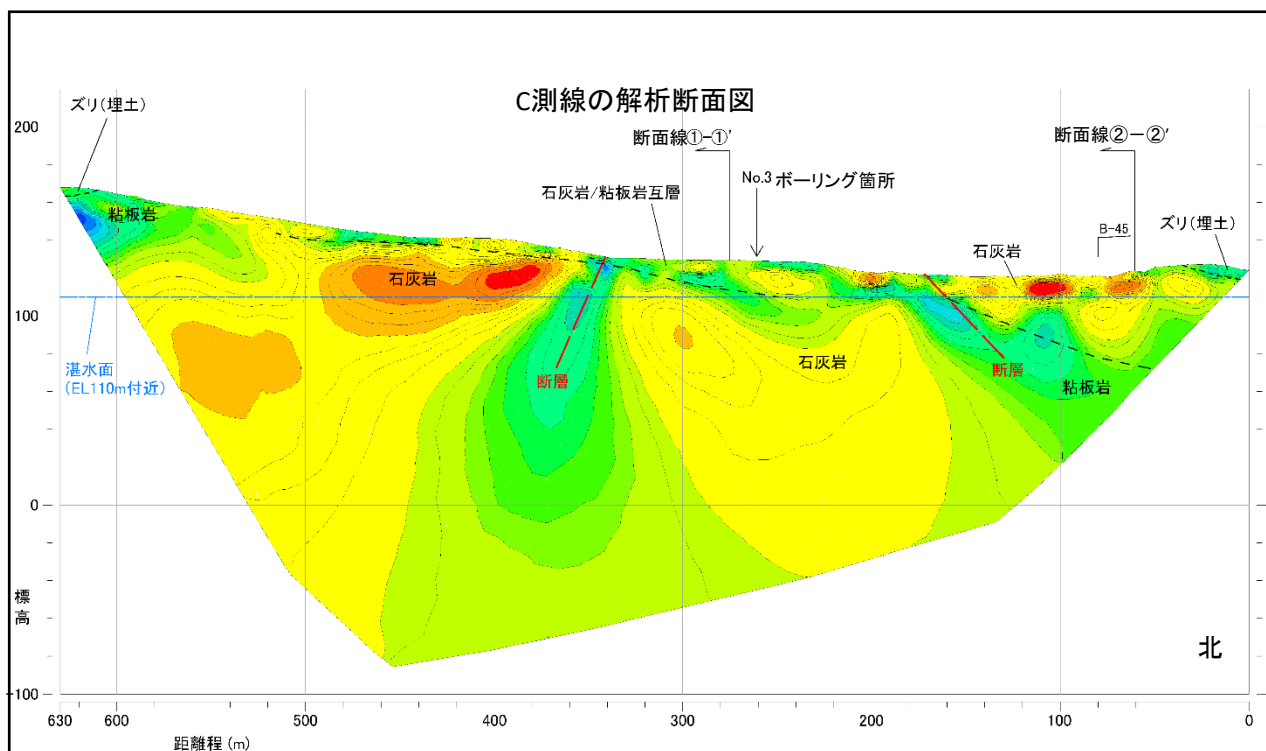
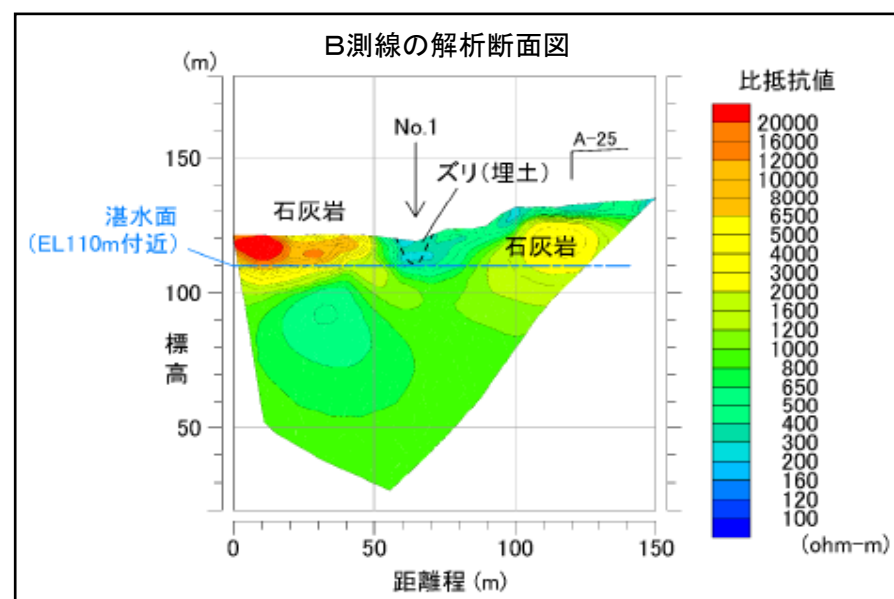
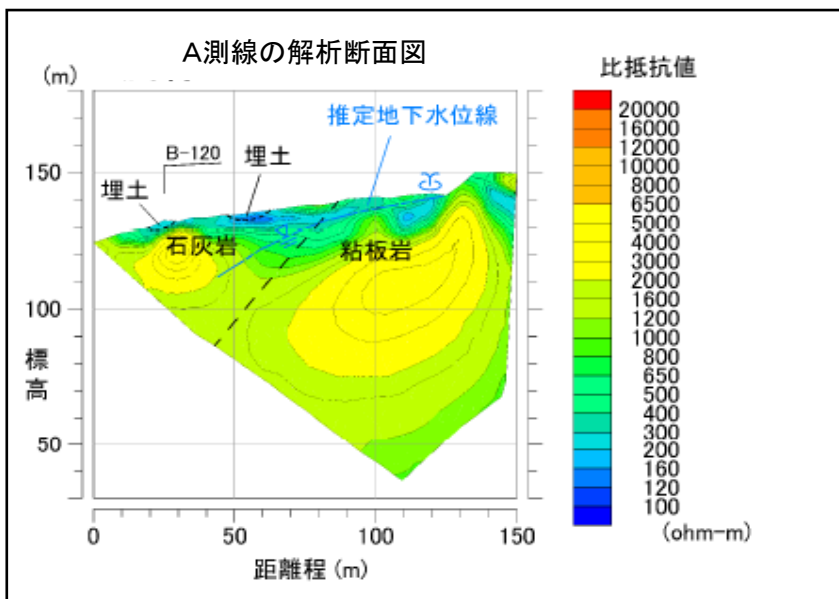
※深度21.00m~25.00mまでは緻密な石灰岩が確認できる。

ボーリング孔内の画像 (No.1) 25～25.3m



※深度25.00m～25.30mまで緻密な石灰岩が確認できる。

電気探査結果（A測線、B測線、C測線 解析断面図）



調査地区における地質と比抵抗値の対比

地質	比抵抗値(Ω-m)
石灰岩(地下水位なし)	5,000以上
石灰岩(地下水位以深)	5,000~1,000
粘板岩及び石灰岩互層(地下水位なし)	2,000~400
粘板岩及び石灰岩互層(地下水位以深)	1,000~200
断層	500~160
埋土(砂礫)(地下水位なし)	400~120

比抵抗値

20000
16000
12000
10000
8000
6500
5000
4000
3000
2000
1600
1200
1000
800
650
500
400
300
200
160
120
100
(ohm-m)